

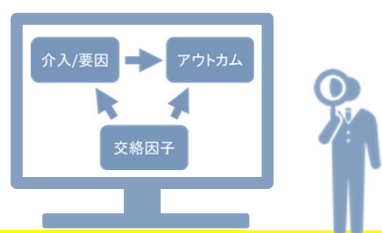
第55回 臨床研究推進啓発セミナー
2024年度第1回 臨床研究発展セミナー

2024年 **9月12日(木)** 18:00-19:00

対象：研究者、医師・歯科医師、看護師・薬剤師等のメディカルスタッフ、事務職員などの病院職員、学生（学外の方も参加できます）

研究デザインBrushup

一歩進んだ因果推論における交絡因子の扱い
-時間依存性交絡とDirected acyclic graphについて理解を深める-



慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター
教育研修部門 特任助教

安田 英人 先生

介入/曝露とアウトカムの因果関係を検証する因果推論を行うためには交絡因子を考慮することが非常に重要となります。無作為化ランダム試験は交絡因子が介入群と対照群で均等になっているために交絡因子について考える必要はありません。しかし、臨床研究として多く実施される研究デザインである観察研究においては群間の比較を邪魔する交絡因子が必ず存在します。その交絡因子に対して適切に対処することが観察研究において正しい因果推論に近づくポイントとなります。

その一方で、交絡因子を何も考えずに統計解析モデルに投入することは正しい因果推論を行うことができない可能性があります。その所以は時間経過とともに交絡の影響が変化してしまう場合があること、そして古典的な交絡因子の概念では正しく因果推論が行えない可能性があるなどが挙げられます。それらを克服するためには時間依存性交絡への正しい対処、そして Directed acyclic graphの概念を取り入れる必要があります。本セミナーでは正しい因果推論に近づくための交絡因子の一歩進んだ考え方について解説します。

お申し込み ▶ <https://education.ctr.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究教育研修 受講管理システムWebサイトより事前申込をお願いします。
お申込頂いた方には、別途、受講案内メールを送付致します。
当日は受講案内メールに記載された参加URLよりアクセスの上、受講して下さい。

